



皆様には日頃より、やしま浩久の県政報告・議員活動に温かいご支援とご理解を賜り、心より感謝申し上げます。令和4(2022)年は、新型コロナウイルス感染症の収束も見通せない中、中国のゼロコロナ政策、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、欧米のインフレ等の影響を受け、世界的な原材料不足と食糧危機、円安やエネルギー価格高騰による物価上昇、さらには北朝鮮による度重なるミサイル発射、夏の参議院選挙遊説中に安倍晋三元総理が銃撃されご逝去された事件等、我が国が直面する安全保障の問題について改めて考えさせられる1年でした。

また大型台風や線状降水帯による集中豪雨、年末には新潟県内で大雪災害も発生しました。激甚化する気象災害は近年大きなリスクとなっており、決して他人事ではなく富山県でも起こり得ます。

人生100年時代と言われて5年が経ちました。私たち個人にとって、大切なものは日々の暮らしです。消費者が購入するモノやサービス等の値動きを測定する消費者物価指数は、前年同月比で毎月3~4%上昇で推移しており、記録的な物価高騰は家計に大きな影響を与えています。様々な不安が解消されるよう、万が一のリスクやインフレ対応への備えを意識した暮らし方がこれまで以上に必要となりますが、政治家や経済人の果たす責任はますます大きくなると感じています。

さて、県議会においては、令和4(2022)年度も引き続き、県土整備農林水産委員会副委員長、感染症等対策特別委員の職責を果たしております。ここに、一般質問や予算特別委員会での質疑等、令和4(2022)年1年間の議会活動を取りまとめ、県政の報告をさせていただきましたので、是非ご一読いただけると幸いです。

たくさんの方の県政課題がありますが、少しでも県民の皆様に関わりやすく、県議会のオープン化を心がけてまいります。航海は生き物、荒波を乗り越えて次への挑戦を誓い、新たな航海に向けて全力を注いでいく所存でございます。引き続き、ご支援ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様のご健勝とご多幸、併せて令和5(2023)年が良い1年になりますことを心から願ひまして、発刊のご挨拶と致します。

# 2月定例会(一般質問)

『地域ふるさとビジョン』より  
「個と公」の調和型社会の実現について



**[質問]** 世界で最も美しい湾クラブに加盟している富山湾のPRについて、来年度の取組や展望は?

〈新田知事〉 ナショナルサイクルルートに選ばれた「富山湾岸サイクリングコース」について、路面標示や案内看板設置等の走行環境のさらなる充実やPR、その他、釣り客をターゲットにした「とやま釣りナビ」の開設、富裕層向けラグジュアリークルーズ客船の誘致にも取り組んでいる。今後も沿岸の市町村や関連団体と協力して、富山湾の国際的なブランド価値を一層高めるための情報発信や魅力づくりに努め、幸せ人口1,000万人につなげてまいりたい。



コース誘導標識



全体コース案内看板

**[質問]** 伏木富山港の物流機能強化に向けた港湾荷役の設備投資についての今後の取組は?

〈江幡土木部長〉 県が所有するガントリークレーンのうち、老朽化が著しい新湊地区の1基の更新工事を令和3年度に発注し、令和5年度中の設置・完成を予定している。また、富山地区ではハイポスト仕様のクレーン製作を進めており、令和4年度中の新設・整備を予定している。国際拠点港湾である伏木富山港の荷役機械の整備に取り組むとともに、脱炭素化に向けた調査研究を進めたい。

『豊かな暮らしビジョン』より  
安全・安心を基盤とした豊かな暮らしの実現について



**[質問]** 降雪・路面凍結による車のスリップ事故を防止するための対策は?

〈江幡土木部長〉 県管理道路 2,300km の除雪延長のうち、24%に当たる約 560km で凍結防止剤を42 台の専用車両で散布しているが、気温や路面温度等の外的環境によっては散布箇所の追加や量の増加等を行っている。しかしこのような対応だけでは効果が限定的であるため、ドライバーに対する注意喚起も併せて行うことが重要であり、引き続き警察と連携して、冬期の安全で円滑な道路交通の確保に努めたい。

**[質問]** 加齢による心身の衰え等への支援・対応が必要であると感じるが、健康寿命延伸の取組として新たに予算化された「データヘルス推進基盤整備事業」について、その導入の経緯と狙いは?

〈蔵堀副知事〉 国保のデータベースが保有する個人ごとの健診・医療・介護データを活用し、データに基づく保健指導等を自治体が実施する事業で、令和4年度は市町村が独自にデータ分析を行うことで、市町村単位での個人の健康状況の経年変化を把握できるシステムを導入したいと考える。これにより効果的・効率的な保健事業が期待されるため、県民全体の健康寿命の延伸が図られるよう努めたい。



**[質問]** 新規事業として予算化されているヘルスケア分野における成果連動型民間委託(PFS)の導入について、経緯と期待する効果は?



※成果連動型民間委託（PFS）とは、官と民が連携して効果的・効率的に社会的課題の解決を図る手法。厚生部では令和3年度、サンドボックス枠予算を活用して、ヘルスケア分野の課題についてPFS導入の可能性を調査した。

〈木内厚生部長〉PFS導入可能性の調査において、富山県では脳血管疾患の死亡率が高く、市町村ごとの特定健診受診率にばらつきが見られたため、令和4年度は「高血圧性疾患重症化予防事業」及び「特定健診受診勧奨事業」に対するPFS導入の調査・研究のための予算を計上した。民間委託により行政コストの削減や効果的な受診勧奨等により健康寿命の延伸が期待されている。

〔質問〕 将来の生活習慣病予防の観点から子供たちの運動習慣の定着が必要と思われるが、教育長の所見は？

〈荻布教育長〉最新の調査で全国的に子供の体力低下が報告されており、要因としてコロナ禍での運動時間の減少やそれに伴う肥満傾向の子供の増加が挙げられている。教育委員会では「とやまっ子ワクワク運動体験応援事業」として、運動遊びの普及啓発講習会の実施や健康的な生活習慣実践を支援するウェブアプリの開発を計画している。利用者が達成感を味わいながら楽しく取り組めるよう工夫したい。

「産業ビジョン」より  
「国際化」を見据えた産業振興について

〔質問〕 創業支援事業について、今後どのように取り組むのか？

〈新田知事〉官民連携した起業支援のエコシステム構築を目指し、令和4年秋に開業する県創業支援センターを起業のワンストップ窓口として機能させる。また、県内の起業支援ネットワークと連携して継続的なフォローアップを行い、官民で重点支援することでロールモデルも創出できればと考えている。



県創業支援センター「SCOP TOYAMA」

〔質問〕 くすりのコンソーシアム事業において、令和4年度の予算は約3,000万円減額されているが、自立・自走化に向けてどのように取り組むのか？

〈木内厚生部長〉くすりコンソーシアムの自立化に向けては、研究をするだけでなく事業化につながる仕組みの構築を目指しており、早期事業化に向けて取り組んでいる。自走化については、産学官連携を通じた県医薬品産業の目指す姿を明確にし、国の補助金や参画機関からの協力も得ながら実現に向けて取り組んでいる。

〔質問〕 アルミコンソーシアム事業は今後どのような方針で集中投資を行なうのか？

〈布野商工労働部長〉循環型アルミ産業網の各工程において、DX・AIを活用してCO<sub>2</sub>排出量の見える化を目指す等、リサイクル化・グリーン化に向けた研究開発を推進し、人材育成や規制緩和の取組とともに富山のアルミの「グリーン化」に集中投資して競争力の強化を図りたい。

〔質問〕 海水温の変化に伴う富山湾の漁獲量の変化と漁業関係者への支援について。

〈堀口農林水産部長〉本県沿岸の漁獲量は年によって大きな変動が見られるが減少傾向にあり、アジアやフクラギの漁獲量が減少してシイラが増加する等、魚種の変化が見られる。漁獲量の変動に伴う漁業収入の減少に対しては、漁業共済による補填制度に併せて、ICT機器の導入支援やスマート水産業を推進し、水産資源の安定供給と県内漁業者の経営安定に取り組んでまいり。



〔質問〕 「富山のさかな」のブランド化に向けた取組は？

〈横田副知事〉コロナ禍により来県者数（＝富山の魚を食べていただく機会）が減少している。令和4年度は、「富山のさかな」PRサイトで一般消費者がオンライン購入できる機会を増やすとともに、YouTuberによるプロモーションの強化や水産見本市への出展でバイヤーを通じた販路拡大を目指す。また、北陸新幹線を活用した鮮魚輸送についても、サポートデスクを設置し、課題を検証しながら本格輸送につなげる等、新たな需要の創出につなげたい。



# 6月定例会(一般質問)

『地域ふるさとビジョン』より  
「個と公」の調和型社会の実現について



**〔質問〕 初代海王丸の総帆展帆におけるボランティアの募集・育成についての考えは？**

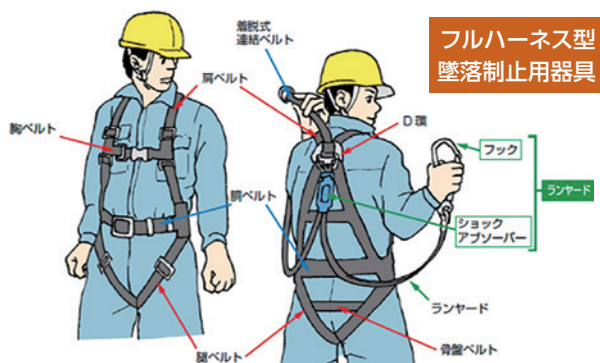
〈蔵堀副知事〉 1回の総帆展帆には70名程度のボランティアが必要であるが、令和4年度の平均参加者数は50名を下回っている。また、740名いるボランティア登録者の平均年齢は65歳ほどで高齢化

している。伏木富山港・海王丸財団ではこれまでの告知に加え、富山高専商船学科の学生への協力呼びかけや特別見学会の実施、また養成訓練の訓練回数を増やす等、育成機会の充実に努めている。



**〔質問〕 令和4年1月から高所作業での安全対策が強化されたが、高所作業が伴う総帆展帆のボランティアの安全対策はどうなっているか。**

〈市井土木部長〉 高所作業における安全確保のためフルハーネス型墜落制止用器具の使用が原則とされたが、建設業における安全対策を参考に、ボランティアの方にも器具を装着していただいております。器具の取扱いを養成訓練の中でしっかりと学んだ上でボランティア登録を行っている。



(出典：厚生労働省ホームページ)

**〔質問〕 学校司書の資質向上のため、研修や先進事例研究への支援についてはどのように考えるか？**

〈狹布教育長〉 県では学校司書や司書教諭を対象にした図書館教育講習会に積極的な呼びかけを行ってきており、定員を拡充し参加者も年々増加傾向にある。学校図書館の充実のため様々な取組事例を学んでいただけるような研修機会の提供や時代に応じた内容、オンライン研修の拡充にも努めたい。

**〔質問〕 令和6年度に県内移住者を1,000人にする目標達成のため、今年度はどのように取り組むのか？**

〈南里地方創生局長〉 地方移住への関心が高まっている流れをしっかりと掴み、本県への移住者を更に増やすため、オンラインセミナーの拡充やベストマッチ相談会・移住交流サロンの開催等、これまでの取組をより強化させる。また、企業に対してはサテライトオフィスの誘致やテレワーク推進による関係人口の創出・拡大等、関係部局と連携して進めてまいりたい。

『豊かな暮らしビジョン』より

安全・安心を基盤とした豊かな暮らしの実現について



**〔質問〕 災害ボランティアに対する富山県の認識は？また、災害ボランティアへの支援について、現状の取組と今後は？**

〈新田知事〉 災害ボランティアは、行政が行き届かない分野の補完という点で大変重要な役割を果たしており、今後ますます役割が大きくなっていくと認識している。支援については、コーディネーターやリーダーを育成する研修を行ったり、総合防災訓練実施の際に災害ボランティアセンターの設置や運営訓練を実施したりしているが、今後も関係機関と意見交換をして必要な支援について検討してまいりたい。

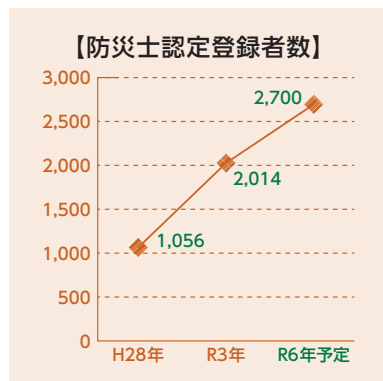


**〔質問〕 富山県は北陸3県の中で防災士の有資格者が圧倒的に少ない。資格取得者増に向けた取組は？**

〈利川危機管理局長〉

石川や福井に比べて防災士の数が少ない要因として、養成研修の開催回数や受講定員、受講者負担金の有無等が考えられる。令和4年度は受講定員を240名

に増やしたり、女性優先枠を設けたりして受講しやすい環境づくりに工夫を凝らし、防災士の増加に向けて取り組みたい。



**〔質問〕 警察官が訓練士を務める直轄警察犬（富山県では未導入）の導入に向けてどう取り組むのか？**

〈杉本警察本部長〉 先進県への視察を行う等、情報を収集して24時間にわたり早期対応可能な直轄警察犬の導入に向けて検討を進めている。また、民間に飼育・訓練を委嘱する嘱託警察犬と併せて活用することが重要と認識しており、引き続き嘱託警察犬とその指導者を幅広く募集してまいりたい。

**〔質問〕 道路交通法の改正で高齢運転者対策の充実・強化が図られたが、どのように周知しているか？**

※5月13日に施行された改正道路交通法では、75歳以上の方の運転免許証の更新に当たり、一定の違反歴がある方を対象とした運転技能検査が導入された。

〈杉本警察本部長〉 5月2日～6月7日の期間中、検査対象者は免許更新予定者のうち273人(8.4%)で、更新満了日の約6か月前に制度の趣旨や検査対象である旨を記載したはがきを郵送している。また70歳以上の高齢運転者には高齢者講習等の機会を通じて制度の周知を図っている。

**「産業ビジョン」より**  
「国際化」を見据えた産業振興について



**〔質問〕 「中小企業ビヨンドコロナ補助金」について、補助対象者が物価高の影響により利益率が減少した事業者も追加されたが、募集方法や期間等どのような取組となるのか。**

〈新田知事〉 募集についてはホームページでの告知に加えて、商工団体や金融機関等の協力を得ながら広く周知に努める。また、DXの活用や新分野への挑戦等の優良事例を横展開できるよう試みる。受付期間については生産性向上や経営基盤強化を十分に検討できるよう6月下旬から2か月程度確保し、1次募集で採択された事業者でも省エネ・コスト削減枠での申請も可能とさせていただいた。

**〔質問〕 クルーズ船の県内への寄港予定、並びに次年度以降に向けた受入れ増への取組は？**

〈南里地方創生局長〉 政府による水際対策の緩和が進む中、クルーズ船の寄港は2、3年後を見据えて計画されており、外国船寄港の問合せが複数ある。クルーズ船社や旅行会社への訪問を通して観光資源のPRを行ってきたが、今後も見本市への出展や船会社を招聘する等、積極的な誘致を試みたい。



**〔質問〕 米粉需要が拡大すれば富山の農業振興にもつながると考えるが、副知事の所見は？**

〈横田副知事〉 国内では米需要が減少し、消費拡大が課題となっているが、米粉専用の品種開発や米粉製品の価格低減が進み、小麦代替として需要が増加している。県では食品製造業者や飲食店等を対象とした研修会の開催や商品開発の促進、情報発信等、一般の小売店への働きかけを進めてまいりたい。

**〔質問〕 日本の排他的経済水域に弾道ミサイルが着弾する等、不安と戸惑いが広がる中、県在籍の漁船等の安全確保にどのように取り組むか？**

〈堀口農林水産部長〉 北朝鮮によるミサイル発射の準備や兆候の情報が事前に得られた際、県内各漁協に注意喚起や出漁の有無を確認している。また、実際にミサイルが発射された際には、水産庁から漁協や漁船に直ちに情報発信される他、県からも県漁連を通じて操業位置と安否確認を行っている。漁業者の安心な操業のために、引き続き国や漁業団体と連携して漁船の安全確保に努める。



# 11月定例会(予算特別委員会)

『地域ふるさとビジョン』より  
「個と公」の調和型社会の実現について



**〔質問〕 令和4年度の個人のふるさと納税の目標や現状、今後の取組は？**

〈岡本経営管理部長〉ふるさと納税は志による寄附と考えて目標金額は設定していないが、返礼品の拡充やポータルサイトの追加等を行い、令和3年度の納税額は前年度比1.5倍超の1億6,500万円となった。(全国順位:28位→17位)また、令和4年11月末までの申込状況は前年同月比1.4倍に伸びており、令和5年5月に開催される「G7 富山・金沢教育大臣会合」開催支援等の具体的なプロジェクトを応援していただく仕組みを導入したり、旅行サイトで使用できるクーポンを返礼品に追加したりして、今後も更なる返礼品の拡充に取り組みたい。

〈ふるさと納税サイトへのアクセスはこちらから〉



ふるさと  
チョイス



さとふる



楽天ふるさと  
納税



ANAの  
ふるさと納税

(出典:「ワクワクとやま応援寄附金」パンフレット)

**〔質問〕 企業版ふるさと納税について、制度活用のハードル緩和を国に働きかけるべきだと考えるが、実績と今後の活用策は？**

〈南里地方創生局長〉企業版ふるさと納税は地方創生の取組に対する企業寄附について法人関係税を控除する制度で、令和6年度までの適用期限延長、税額控除割合の引上げ、認定制度の簡素化等の大幅な見直しが行われた。そのため、全国的に寄附実績の増加が見られ、本県では寄附金額・件数ともに前年度比約3倍の2億4,000万円・68件で過去最多となった。制度活用のためのハードル緩和についてはこれまでの本県の要望が一定実現されたところであり、地方税の応益性の原則に合う制度設計になっていると考える。引き続き、官民連携による更なる地方創生の充実・強化のため、寄附獲得に向けた取り組みを推進したい。

**〔質問〕 第3セクター化20周年を迎えた万葉線の更なる支援強化についてどう考えるか？**

〈田中交通政策局長〉万葉線は開業以来、低床式アイスクラムの導入や地域色を活かしたイベントの企画等の取組によりコロナ



禍以前は毎年100万人以上の利用者に愛され親しまれている。県では、様々な安全対策やICカード対応等の利便性向上策、イメージアップを図る取組にも射水市や高岡市と共に支援を行ってきた。今後は、リアルタイムで運行状況を確認できる「とやまロケーションシステム」の機能拡充や、射水市内の店舗で利用できるクーポン付きの「新湊海鮮グルメ堪能&万葉線1日フリーチケット」販売等の取組で、万葉線の支援強化に努めたい。

**〔質問〕 県立高校の学区について、現時点ではどのように考えるか？**

〈荻布教育長〉令和4年11月に2回開催された総合教育会議において、通学区域のあり方について様々なご意見をいただいた。通学区域の縛りをなくすことは学校選択の幅が広がるが、特定の学校や地域に志願者が集中し、さらに学級減が加速する可能性もある。学区の取扱いについては今後の総合教育会議において、これまでの議論も踏まえながら慎重に検討してまいりたい。

**〔質問〕 富山市立北部中学校での生徒自殺について、富山市教育委員会に対して適切な指導助言をすべきと考えるが、所見は？**

〈荻布教育長〉小中学校の管理監督は設置者である市町村の教育委員会が行うこととされており、富山市教育委員会は外部有識者による組織を立ち上げ調査を行う予定である。県教委としては市教委との連携・助言を行うとともに、生徒の心のケアや教職員のサポートのため指導主事やスクールカウンセラーの派遣を行っている。今後も各市町村教育委員会との連携を深め、些細なことでも積極的に認知して早期に適切な対応をすることを徹底し、再発防止に努めたい。

**〔質問〕 優秀な教員確保のため、教員採用試験の改革にチャレンジすべきではないか？**

〈荻布教育長〉優秀な教員確保は、次代を担う人材育成に向けて最重要課題であると認識している。県教委では、教員採用検査の内容の精選や1次検査免除対象者の拡大等、受検者の負担を減らす大胆



な見直しを行い、次年度に向け Web 出願の移行準備も行っている。また、教員採用検査の実施時期の早期化について、文科省が本格的な検討に入ったところであり、教員志望者の民間企業等への流出防止につながると期待される一方、教育実習期間等の調整や教員の働き方改革、処遇改善等の検討が必要であるとの意見もある。本県としては国の動向も注視しつつ、不断の改善に努めたい。

『豊かな暮らしビジョン』より  
安全・安心を基盤とした豊かな暮らしの実現について >>

〔質問〕 防犯設備緊急整備事業が昨年度で終了したが、防犯カメラ設置支援の必要性についての所見は？

〈新田知事〉 北陸新幹線開業に伴う交流人口の増加や奥田交番襲撃事件等を踏まえ、平成 25 年度から断続的に累計 313 地区 572 台の防犯カメラ設置を支援してきた。事業は目的の概ねの達成を以て終了したが、今後はホットスポット・パトロールの普及啓発等、主にソフト面での取組を継続して「安全で安心な県」実現のため必要な対応を検討したい。

〈八嶋〉 地域から防犯カメラの設置について要望があれば検討するか？

〈新田知事〉 緊急整備事業は 3 年間の実施期間と目標台数に達したことから十分であると考えている。

〈八嶋〉 見守り隊の減少も踏まえ、防犯カメラの効果検証と事業再開の検討を願う。

〔質問〕 迷惑行為等防止条例改正案では、私的空間での盗撮について取締りができるようになるが、改正による効果と県民への周知は？

〈杉本警察本部長〉 盗撮行為はこれまで公共の場所や多数の者が利用する場所を規制対象としてきたが、規制場所の制限をなくし私的空間まで規制できるよう改め、令和 5 年 4 月 1 日施行予定である。令和 4 年 7 月時点で 35 都道府県の条例でも規制されており、私的空間での盗撮行為が罰則の軽い軽犯罪法違反ではなく、適切な処罰が実現され、県民の平穏な生活に資する効果がある。街頭キャンペーンや広報媒体の効果的活用で県民に広く周知したい。

『産業ビジョン』より  
「国際化」を見据えた産業振興について >>

〔質問〕 燃料費や漁船の修繕・建造費の高騰、漁師の高齢化・担い手不足等の課題に対する漁業者への支援は？

〈新田知事〉 燃油価格の高騰に対しては漁業者積立金に対する支援、漁船の建造費には融資枠の拡充や保証制度導入の見直しを検討している。担い手確保に向けては求人手法等の先進事例紹介や高付加価値化を学ぶ研修を実施し、経営感覚を有する漁業者の育成に努めている。



〔質問〕 観光船の運航事業者が取り組む安全対策への支援は？

※令和 4 年 4 月に北海道知床沖で小型旅客船が沈没し、死者・行方不明者を出す惨事となった。

〈南里地方創生局長〉 観光船の事故を受け、国では安全対策の検討委員会が設置され、国交省の補正予算で改良型救命いかだ等の導入補助や教育訓練用ガイドライン・教材の作成等、安全対策に必要な経費が計上された。県では、国の取りまとめる安全対策の内容や支援策について情報収集を図り、関係市町村や観光船運航事業者と連携を取りながら、乗客が安心して観光船を利用できる環境づくりに取り組んでまいりたい。

〔質問〕 NHKの朝ドラの誘致に取り組むべきと考えるが、所見は？

〈南里地方創生局長〉 注目度の高いドラマや映画の誘致は、関係者の来県による直接的な経済効果と併せて、「聖地巡礼」等の新たな観光誘客や地元の魅力再発見による地域活性化、関係人口の創出等、多くのメリットがある。県では、映像制作者が集まる展示会や商談会への参加、SNS を活用したロケ



地情報の発信等の積極的な誘致活動を行っており、今後も市町村と協力して「選ばれ続ける県」となるよう取り組みたい。

〔質問〕 海王丸の今後の維持や整備方針は？

〈新田知事〉 帆船海王丸は昭和 5 年に建造され、海王丸パークのシンボルとして延べ 221 万人の乗船実績を持つ。総帆展帆や内部の一般公開を継続するためには 5 年毎の定期検査を受け「生きた船」として保存する必要があるが、船体の老朽化も進んでいることから、大規模修繕については射水市や伏木富山港・海王丸財団と検討したい。

# 常任委員会での質問

## 常任委員会とは…

県議会には、議員全員が参加して議会の最終決定を行う「本議会」と本議会の議論を踏まえて予算を審査する「予算特別委員会」のほかに、県政の諸問題を専門的に調査・審査する「常任委員会」が設置されています。

議員は、分野別の5つの常任委員会のいずれかに所属し、議員の質疑に対して課長級の県職員から応答を得ます。

## 2月定例会 常任委員会 (県土整備農林水産委員会)

### 工業用水漏水対応について

〈八嶋〉西部工業用水道管で度重なり発生した工業用水の漏水に対する対応は。

※令和3年4月に射水市作道で、令和4年1月に射水市今井にて工業用水道管から漏水が発生した。

〈今井企業局長〉周辺の受水企業の企業活動への影響を考慮すると、極力断水をせずに早期の復旧に向け作業を進めたいが大変な時間を要するため、まず水道管の損傷拡大を防ぐ保護カバーを設置する応急補修工事を行う。その後の本格復旧工事として不断水工法によるバイパス管工事を検討しており、工事完了は7か月後を見込んでいる。

### 道路監視カメラの活用状況について

〈八嶋〉全部で159基ある道路監視カメラの活用状況と効果は。

〈金谷道路課長〉大雪時等の道路の情報収集のため、著しい渋滞が発生した交差点や交通量の多い交差点を中心に、道路監視カメラを159基運用しており、国等の監視カメラと合わせると338基で積雪・路面状況を監視している。中にはAIによる自動解析でスタック車両を発見することにより迅速な状況判断に繋がっている。また、ウェブサイト「富山県冬期道路情報」のアクセス件数は令和3年度に比べ5割増の約200万件の利用があり、カメラ画像はケーブルテレビや市町村のホームページを介してより多くの視聴者に提供されている。



富山県冬期道路情報

### コロナ禍の牛乳生産について

〈八嶋〉県内の牛乳生産と需要の見込み、酪農家や牛乳加工業界への影響と消費喚起への取組は。

〈津田農産食品課長〉新型コロナウイルスの影響で需要の落ち込みに加えて大型連休時には学校給食が停止するため、全国的に生乳の需要が落ち込み、加工に仕向けられている。県内では年間約1万トンの生乳生産のうち、8割が県内、2割が北陸管内の乳業者に大半が飲用として使用されている。仮に県内で生乳の需要が緩和した場合、北陸地方の乳業者に広く供給されるため、酪農家や乳業者の牛乳生産には大きな影響がないとのことである。また、牛乳の廃棄を防ぐ取組としてSNSや「とやま食の安全・安心情報ホームページ」を活用して消費拡大を呼び掛けており、全国の乳業者・酪農関係者で構成する「一般社団法人Jミルク」の事業を活用して、福祉・医療施設やフードバンク、子ども食堂等への牛乳の提供も行われている。



(出典：Jミルクホームページ)

### 家畜飼料の値上がりについて

〈八嶋〉家畜飼料の値上がりが畜産農家や事業者の経営を圧迫しており支援が必要と考えるが、今後の取組は。

〈岡村畜産振興班長〉家畜飼料の原料として輸入されるトウモロコシの輸入価格の高騰から、飼料価格が令和3年より2割程度上昇しており、今後さらなる高騰が予想される。国の経営安定対策において、積立基金から値上がり分の差額を畜産農家に補てんする制度があり、県もこの生産者積立金の一部に支援している。また、施設機械の整備や耕作放棄地での放牧等への支援にも取り組んでおり、飼料価格の動向を注視して、引き続き飼料費の低減を推進し、畜産経営の影響緩和に努めてまいりたい。



# 6月定例会 常任委員会 (県土整備農林水産委員会)

## 北陸新幹線による鮮魚輸送事業について

※北陸新幹線で首都圏に県産の海の幸を輸送する検証が行われている。富山駅発着の「つるぎ」に積み込み、金沢駅で「かがやき」に切り替わって、東京駅に輸送する方法を試験的に採用している。



### 〈八嶋〉鮮魚輸送事業についての実績と販路拡大への取組は。

〈伴市場戦略推進課長〉令和3年度は富山湾で水揚げされた鮮魚を金沢駅までトラック輸送し、「かがやき」に積み込んで首都圏まで輸送していたが、県東部の漁港においては距離が課題となっていた。令和4年度は「つるぎ・かがやき」を利用した輸送方法で、朝水揚げされてボイル・箱詰めしたホタルイカが午後3時頃には都内のすし店10店舗でお客様に提供されており、物流・品質の両面で支障がないことが確認された。販路拡大においては、鮮度の高さを付加価値として夏はシロエビ、秋はベニズワイガニ等、季節ごとに魚種を変えながら実証を重ね、相談デスクの開設や輸送コストの助成も行いながら、制度の有効性を県内の事業者にも広く普及させたい。

## 漏水検知器等の試験的導入について

〈八嶋〉2月定例会で予算化された漏水検知システムの試験的導入について、進捗状況と今後の運営方法は。

〈酒井水道課長〉従来の目視や聴音棒による調査のほか、新たにIOTを活用した漏水検知システムを導入し、データ解析により漏水の場所や程度を把握するため、現在データ取集中である。全国的に見ても導入事例が少ないシステムのため十分な検証が必要であり、県立大学DX教育研究センターに学術面の協力を依頼している。今後も産学官が連携して、漏水検知システムの本格導入に向けた検証を進めてまいりたい。

## 再生可能エネルギーについて

〈八嶋〉企業局が運営する再生可能エネルギー（再エネ）を導入した電気事業について、需要の増加に対する対応や今後の見通しは。

〈森田電気課長〉現在、太陽光発電1か所・水力発電20か所で、県内世帯の約3分の1の年間使用量に相当する再エネ電力を供給している。最新の技術・設備の導入により発電能力が増加し、令和10年度のCO<sub>2</sub>削減効果は年間約2万トンを予定している。また、北陸電力と包括連携協定に基づき創設した「とよま水の郷でんき」は現在12社、14事業所と契約しており、再エネに対するニーズの増加が今後も見込まれることから、豊かな自然を生かした再エネ電力の拡大と安定供給に取り組むたい。

※「とよま水の郷でんき」は、県営水力発電所が生み出す富山県産かつCO<sub>2</sub>フリーの環境価値を付加した電気料金メニュー。

# 9月定例会 常任委員会 (県土整備農林水産委員会)

## 農業用水路の安全対策について

〈八嶋〉用水路転落事故が後を絶たないが、注意喚起等の取組は。

〈松本農村整備課長〉農業用水路の安全対策については住民参加型が効果的であり、行政と児童の保護者や高齢者等が連携して危険箇所マップの作成等に取り組んでいる。また、令和2年度からは用水路転落の危険性が増す時期に転落事故防止強化期間を設定し、のぼり旗や看板の設置、チラシや缶バッジの配布、標語やポスターのコンクール等の普及啓発活動に取り組んでいる。

## 異常気象による農作物への影響について

〈八嶋〉異常気象が農作物へもたらした影響は。また、どのような支援をしていくのか。

〈島辺研究普及・スマート農業振興班長〉今年も異常気象の影響により、生育不良や一部収穫不能等の被害が出た。県では、气象台からの情報に合わせて適切な管理が徹底されるよう、JA等の関連団体に事前事後対策の指導等、きめ細やかな情報提供に努めている。特に令和4年の台風11・14号では、高温による水稻の胴割れを防ぐため、早めの刈取りを指導する等の被害の未然防止に努めた。

## 消雪施設の設置について

〈八嶋〉 県道富山高岡線（富大五福キャンパス付近）の大雪対策についての進捗状況は。

〈二木道路課長〉 当該区間については消雪施設の新設に向けて水源調査を実施しており、安野屋一丸の内区間は地下水が確認され、散水方法や費用負担について交通事業者と協議し設計を進めている。呉羽山の登り坂付近は継続調査中であるが、引き続き消雪施設の検討と除雪強化に取り組みたい。

# 11月 定例会 常任委員会 (県土整備農林水産委員会)

## とやまプレミアム食事券事業について

〈八嶋〉 プレミアム食事券の販売状況や、県全体では初のキャッシュレス決済ポイント還元事業における事業者の募集状況は。

〈伴市場戦略推進課長〉 とやまプレミアム食事券は令和4年7月11日から50万冊販売しており、10月3日から20万冊増刷して販売した食事券は18万冊（11月21日現在）を超えている。また、11月1日より決済システム「d払い」を活用してポイント還元事業を実施しており、食事券対象店舗2,243店のうち599店がd払い対象である。現在手続き中の店舗を含めると12月上旬には1,000店舗ほどになるが、引き続き導入を働きかけてまいりたい。

## 大規模災害への対応について

〈八嶋〉 自治体の能力を超える大規模災害が発生した場合、社会インフラの復旧対応はどうなっているのか。

〈城光寺建設技術企画課長〉 近隣県や全国知事会と災害応援体制を構築し、速やかに職員の派遣等の協力が得られるよう体制を整えている。そのほか、社会インフラ関係10団体との災害協定の締結、国交省の緊急災害対策派遣隊（テックフォース）による支援、民間団体の協力等も得ながら、復旧に迅速に取り組みよう備えてまいりたい。

特別委員会

# 2月 定例会 感染症等対策特別委員会

## エッセンシャルワーカーへの優先接種について

〈八嶋〉 エッセンシャルワーカーの方には早期の3回目ワクチン追加接種が望まれるが、その取組は。

〈高田健康対策室課長〉 富山県においては消防・警察ともに、職域接種や特設会場での速やかな接種が進んでいる。国からは予約枠の空き状況に応じて自治体で判断し、エッセンシャルワーカーへの優先接種や64歳以下の一般対象者の前倒し接種を検討するよう通知があり、引き続き市町村と連携して進めてまいりたい。

※エッセンシャルワーカー…医療従事者や消防士・警察官等、県民の命や財産を守るまたは社会機能維持のために必要な事業従事者。令和4年1月、兵庫県姫路市の消防署でクラスターが発生し、半数の消防士が自宅療養や待機を余儀なくされたことを受けての質問。

その他の委員会

# 5月開催 政策討論委員会

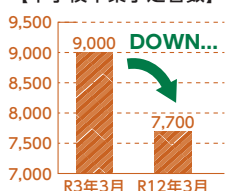
## 討論テーマ「高校の今後の在り方について」

県教育委員会の調査によると、中学校の卒業予定者は年々減少しており、加えて令和3年3月の卒業生約9,000人のうち248名が県外の高校に進学している。県立高校

は再編統合が進められ、43校あった全日制県立高校は令和4年4月に34校になった。また、富山県では5人に1人が私立高校に進学しているが、生徒の減少は私立高校の存続にも関わってくる。

以上を踏まえて、今の時代に合った高校教育とはどのようなものなのか、生徒から選んでもらえる高校とはどういった高校なのか、活発な討論が行われた。

【中学校卒業予定者数】



# 視察&研鑽

常任委員会として所属している県土整備農林水産委員会や自民党調査会では、各地の先進事例等の視察活動や意見交換を通して、県政の諸課題に取り組むための礎としています。

## 福井県福井市 (R4年5月12日)

- 〈見学〉(一社)ふくい美山きときとき隊  
 〈内容〉自伐型林業の魅力や取組についての調査及び意見交換



## 沖縄県那覇市・うるま市 (R4年7月12~14日)

- 〈見学〉エナジック車海老養殖場・うるマルシェ・那覇港管理組合 他  
 〈内容〉養殖業・農水産業振興戦略の取組、那覇港の災害対策や輸出促進の取組についての調査



## 北海道札幌市 (R4年8月3~5日)

- 〈見学〉札幌ドーム・北海道庁・北海道立総合研究機構・札幌市子ども発達支援総合センター  
 〈内容〉北海道ケアラー支援条例・子ども支援、再生可能エネルギーや循環資源等の利活用について



## 富山市婦中町 (R4年8月12日)

- 〈見学〉富山県スマート農業普及センター  
 〈内容〉スマート農機の実演視察及び富山県農業法人等との意見交換会



# やしまの県議会での質問・提言が新聞で取り上げられました!

- ◆ 「射水の工業用水道で漏水」 (2月22日付 北日本新聞)
- ◆ 「1億2,000万円の負担軽減」 (2月22日付 富山新聞)
- ◆ 「富山のさかな 県外PRを」 (3月4日付 北日本新聞)
- ◆ 「新幹線活用の鮮魚輸送」 (3月4日付 富山新聞)
- ◆ 「伏木富山港整備方針は」 (3月4日付 富山新聞)
- ◆ 「中小支援補助金の期間は」 (6月10日付 北日本新聞)
- ◆ 「海王丸 総帆展帆ボランティア」 (6月10日付 北日本新聞)
- ◆ 「総帆展帆の担い手増を」 (6月10日付 富山新聞)
- ◆ 「中学生自殺 県教委どう対応」 (12月9日付 北日本新聞)
- ◆ 「漁業従事者支援へ 融資制度拡充検討」 (12月9日付 北日本新聞)
- ◆ 「海王丸の大規模修繕検討」 (12月9日付 北日本新聞)
- ◆ 「海王丸建造92年で老朽化」 (12月9日付 富山新聞)
- ◆ 「万葉線の支援強化必要」 (12月9日付 富山新聞)
- ◆ 「ふるさと納税申請1.4倍」 (12月9日付 富山新聞)

## 「新聞で取り上げられたその他の記事」

- ◆ 富山県議会議員書道クラブ 新春色紙展 (2月15日付 北日本新聞)
- ◆ 「船底の作業終了報告 大型ヨットの建造で」 (6月12日付 富山新聞)
- ◆ 「違法駐車を追放へ 支部員がパトロール」 (7月15日付 富山新聞)
- ◆ 「放生津支部員がカーブミラー清掃」 (7月19日付 富山新聞)
- ◆ 「交通事故防止へ カーブミラー清掃」 (7月22日付 北日本新聞)
- ◆ 「酒蔵 地域の未来つなぐ」 (9月15日付 北日本新聞)
- ◆ 「県議が議会や税金の役割解説」 (10月13日付 北日本新聞)
- ◆ 「主催者の大切さを学ぶ」 (10月13日付 富山新聞)

※全てR4年掲載分

## 数字で見る やしま浩久の活動&軌跡

定例会での質問数  
(一般質問)

26

(令和元年 27 令和2年 16 令和3年 15)

定例会での発言数  
(予算特別委員会)

14

(令和元年 0 令和2年 39 令和3年 36)

常任委員会での発言数  
(県土整備農林水産委員会)

21

(令和元年 18 令和2年 28 令和3年 21)

特別委員会での発言数  
(感染症等対策特別委員会)

2

(令和元年 2 令和2年 3 令和3年 0)

政策討論委員会での  
発言数 (初参加)

3

(令和元年～3年は不開催)

やしま浩久の年齢  
(R5.2.5 現在)

59

## エピソード 寛政丸航海誌 episode -家業・八嶋倉庫の歴史-

かつて北前船の往来で栄えた新湊地域。やしま浩久の政治資金管理団体および本紙のタイトルにも使わせていただいた「寛政丸」とは、そんな北前船の主力船の一隻の名前で、同時に現在のやしま浩久の生業でもある八嶋倉庫のルーツとも言えます。

八嶋家古来の言い伝えによると、「寛政丸」は600石の船であり、今で言う10tトラック9～10台分の物量を積載し運搬していた船です。富山(新湊・放生津)からは鳥取(境港)へ向かうルートと北海道(函館・小樽・余市)へ向かうルートが運航されており、各地の寄港地で米や肥料、薬草、昆布等の海産物・加工品、布や織物等を積みながら、日本海側をくまなく行き来していたようです。



600石という大きな荷物を、陸路よりも遙かに不安定な海上で運んでいた、当時の船大工の造船技術や船員達の航海技術の正確さには改めて感動させられるばかりですが、現在も寛政当時の思いはそのままに、お客様の大切な荷物を預かり、運ぶ心構えは時代を越えて普遍的なものがあります。

そんな寛政時代の先達に思いを馳せ、どんな荒波にも挫けずひたすら前進する覚悟を、「寛政丸」という名に込めました。「寛政丸」の航海が前途洋々たるものとなるよう、精いっぱい県政に邁進いたします。



寛政丸



いつでも!どこでも!  
皆様のお声を聞かせてください!  
お気軽に  
お声掛けください!



県政報告は動画でもご覧いただけます!

## やしま 浩久

〒934-0038 富山県射水市津幡江 738-1  
TEL.0766-92-1613 FAX.0766-92-1633  
ホームページ URL <https://yashima1613.jp>  
E-mail [yashima1613@gmail.com](mailto:yashima1613@gmail.com)

紙は、雷鳥コートを使用しています (R5.2.5 発行)